

コミュニティバスを活用した交通不便地域の解消

近年、交通不便地域が拡大傾向にある中で、各自治体はコミュニティバスの導入など、様々な方法で解消を図っている。

本論文では、コミュニティバスの導入が交通不便地域に与える影響を明らかにすることを目的として研究を行った。

東京都内の自治体を対象に行った調査の結果、コミュニティバスは主に利便性の向上を目的として導入されていることが明らかになった。本研究では、コミュニティバスの導入による交通不便地域への具体的な影響を検討するため、国立市・武蔵野市・板橋区を対象に調査を行った。

調査では、各地域において路線バスによる交通不便地域を示した地図と、コミュニティバス導入後の交通不便地域を示した地図の2枚を作成し、比較分析を実施した。

その結果、国立市および武蔵野市では、コミュニティバスの導入によって交通不便地域が解消されていた。また、調査対象のすべての自治体において、コミュニティバスの導入による利便性の向上が確認された。

今後、交通不便地域の拡大が見込まれる中で、各自治体はコミュニティバスの導入をはじめとした交通網の縮小への適切な対応が求められる。